

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	家政学研究科 生活福祉学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。学則において、以下のように定めている。
「先進国の超少子高齢化、発展途上国の人口増加は社会のあらゆる側面に影響し、福祉サービスに対する利用者と提供者の権利擁護、貧困と生活問題に関するグローバルな視点と支援の要請はさらに強まっています。生活福祉学専攻は、生活の基盤である衣食住などに関する生活科学を基底にして、このような社会的要請を理解しそれに応える研究者や専門的職業人を育成します。学位取得後には、福祉、介護や健康に関する科学分野で活躍できることを目指します。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学院要覧において教職員および学生に周知されている。
また京都女子大学HPにおいて、広く周知されている。
<http://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/graduateschool/kasei/fukushi.html>

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

昨年度、入学者が1名あった。また、中国留学生などから入学の問い合わせがあり、周知されていると言える。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 適切な点検・評価が行われています。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	家政学研究科 生活福祉学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。学位授与の方針は以下のとおりである。 次の要件と資質を有している者に対して修士(生活福祉学)の学位を授与します。 学位授与の諸要件 大学院学則第12条に定める要件を満たし、あわせて別に定める学位論文審査基準を満たした者。 基本的な資質 (1)[知識・理解] 衣食住健康等に関する生活学を基本にすえ、生活の安心安全を実現するための福祉、介護、健康及び生活に関する知見を総合的かつ科学的な視点から理解し、思考することができる高度な専門的知識を修得している。 (2)[技能・表現] a 生活問題の現象と原因を科学的体系的に捉える知見を有し、かつその問題への対応方法と技術を実践する。 b 福祉的視点に立脚し自らの研究視点を持ち、研究分野における課題の諸相を分析するとともに、新たな問題提示及び対応解決の方法や方策を提案する。 以上を可能とする高度な専門的知識を活用・応用する専門的能力を修得している。 (3)[態度・志向性] 建学の精神を深く理解し、豊かな人間性と高度な専門知識と幅広い視野を備え、生涯にわたり新しい価値を生み出していこうとする自覚を有している。 (4)[統合的能力] 上記(1)～(3)の高度な専門的知識や専門応用能力を統合的に活用することができ、グローバルな社会に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 学位授与方針は「京都女子大学大学院学則」に明示されている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。以下の通りである。 「生活福祉学専攻では、生活や福祉の意味するところを既知のものとして定めず、したがってその社会や時代によって生ずる問題課題の本質やその対応方法を分析理解する研究能力に重きをおき、以下のとおり教育課程を体系的に編成し実施します。あわせて、大学院設置基準第14条特例(昼夜開講)により、社会人等に配慮した研究指導体制も備えています。本専攻の教育課程は、基礎科目群、分野科目群、研究指導の3科目群から構成され、すべての科目群から所定の単位を取得する。 基礎科目群は、本専攻の学問的基盤を理解するために福祉に関連する事項を多角的に学ぶ科目を配置しており、所定の単位を必修とする。 分野科目群は、学生の研究分野をより深く探求するために福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度などに関連する科目を設定し、個別研究の進展を期する群として履修を求める。なお、研究指導については、指導教員の指導により単位を修得する。 以上をもって研究の成果を修士の学位論文として作成し、高い実効的な対応が可能な能力の確立を目指します。」
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 退職にともなう不開講科目解消に向け、教員の補充を行った。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。以下の通りである。
「生活福祉学専攻では、生活や福祉の意味するところを既知のものとして定めず、したがってその社会や時代によって生ずる問題課題の本質やその対応方法を分析理解する研究能力に重きをおき、以下のとおり教育課程を体系的に編成し実施します。あわせて、大学院設置基準第14条特例(昼夜開講)により、社会人等に配慮した研究指導体制も備えています。本専攻の教育課程は、基礎科目群、分野科目群、研究指導の3科目群から構成され、すべての科目群から所定の単位を取得する。
基礎科目群は、本専攻の学問的基盤を理解するために福祉に関連する事項を多角的に学ぶ科目を配置しており、所定の単位を必修とする。
分野科目群は、学生の研究分野をより深く探求するために福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度などに関連する科目を設定し、個別研究の進展を期する群として履修を求める。なお、研究指導については、指導教員の指導により単位を修得する。
以上をもって研究の成果を修士の学位論文として作成し、高い実効的な対応が可能な能力の確立を目指します。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

2013年度以後入学者がなかったが、2017年度1名の社会人の入学者があった。入学者は長期履修(3年)であるが、研究計画に従い、修士論文作成に向けて、研究を進められるように教育体制の整備を行っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

社会人の院生の入学に備え、仕事と研究が両立できる体制を継続してつくり、教育環境を整備する。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻では、修士課程学生には研究計画書を作成させ、研究の進捗状況の把握を行っている。専攻の教員は、研究計画書及び、各授業において研究の内容や効果を的確に把握することができるようにして、学生の研究活動の活性化と、効果的な教育の実施を行っている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

修士課程学生には研究計画書を作成させた。研究が進んでいることを把握した。専攻の教員は、研究計画書及び、各授業において研究の内容や効果を的確に把握し、学生の研究活動が活性化し、効果が上がっていることを確認した。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

修士課程学生には研究計画書の作成をさせ、研究の進捗状況の把握を行う。専攻の教員は、研究計画書及び、各授業において研究の内容や効果を的確に把握し、学生の研究活動が活性化し、効果が上がっていることの確認を行う。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

各科目の評価は担当教員に任されている。修士の研究論文については、担当教員による指導のみならず、専攻内でも中間発表を通して質疑応答を行い、さらに家政学研究科における修士論文発表会と質疑応答により評価することとしている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて示した成績評価の基準に基づき会議において評価を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方針】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、研究計画を提出させ、専攻の教員は、研究の進捗状況を的確に把握することができるようになっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方針】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

⑥、⑦の点検・評価について、次年度以降、進展状況を記入してください。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

①の成果および伸長方策には、教職員像のことでなく、学位授与方針のことを記述してください。

②は「教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか」について記述してください。現状報告、点検・評価は2017年度の412「教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか」の記述を参考にしてください。

③は「各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか」について記述してください。現状報告、点検・評価は2017年度の421「教育課程の編成・実施方法に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか」の記述を参考にしてください。

⑤は「成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか」について記述してください。現状報告、点検・評価は2017年度の433「成績評価と単位認定は適切に行われているか」の記述を参考にしてください。

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

①は、「学位授与方針は「京都女子大学大学院学則」に明示されている」と修正した。

②は、以下とした。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。以下の通りである。

「生活福祉学専攻では、生活や福祉の意味するところを既知のものとして定めず、したがってその社会や時代によって生ずる問題課題の本質やその対応方法を分析理解する研究能力に重きをおき、以下のとおり教育課程を体系的に編成し実施します。あわせて、大学院設置基準第14条特例(昼夜開講)により、社会人等に配慮した研究指導体制も備えています。本専攻の教育課程は、基礎科目群、分野科目群、研究指導の3科目群から構成され、すべての科目群から所定の単位を取得する。

基礎科目群は、本専攻の学問的基盤を理解するために福祉に関連する事項を多角的に学ぶ科目を配置しており、所定の単位を必修とする。

分野科目群は、学生の研究分野をより深く探求するために福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度などに関連する科目を設定し、個別研究の進展を期する群として履修を求める。なお、研究指導については、指導教員の指導により単位を修得する。

③は、以下とした。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。以下の通りである。

「生活福祉学専攻では、生活や福祉の意味するところを既知のものとして定めず、したがってその社会や時代によって生ずる問題課題の本質やその対応方法を分析理解する研究能力に重きをおき、以下のとおり教育課程を体系的に編成し実施します。あわせて、大学院設置基準第14条特例(昼夜開講)により、社会人等に配慮した研究指導体制も備えています。本専攻の教育課程は、基礎科目群、分野科目群、研究指導の3科目群から構成され、すべての科目群から所定の単位を取得する。

基礎科目群は、本専攻の学問的基盤を理解するために福祉に関連する事項を多角的に学ぶ科目を配置しており、所定の単位を必修とする。

分野科目群は、学生の研究分野をより深く探求するために福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度などに関連する科目を設定し、個別研究の進展を期する群として履修を求める。なお、研究指導については、指導教員の指導により単位を修得する。

以上をもって研究の成果を修士の学位論文として作成し、高い実効的な対応が可能な能力の確立を目指します。」

⑤は、以下とした。

各科目の評価は担当教員に任されている。修士の研究論文については、担当教員による指導のみならず、専攻内でも中間発表を通して質疑応答を行い、さらに家政学研究科における修士論文発表会と質疑応答により評価することとしている。

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	家政学研究科 生活福祉学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。受け入れ方針は以下の通りである。
「生活福祉学専攻は、家政学が探求してきた衣、食、住、健康等に関する生活学を基本に、介護、医学、そして福祉の知見を統合して生活を総合的かつ科学的な視点から研究し、快適な生活を創造するための方法や技術を身につけ、その成果を実践できる高度で専門的な能力を有する研究者・職業人の育成を旨とします。そのために、福祉的視点に立った自らの研究分野に関連する専門的知識を有し、今日的な研究課題に取り組む意欲のある人材を、大学院入学者選抜試験において求めます。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程として平成25(2013)年3月26日に制定した。
京都女子大学HPにおいても公表している。http://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigakuin/houshin/kasei.html#anc001_03
2013年度以来入学生がなかったが、2017年度は社会人の入学生があった。
また、合格に至らなかったが、中国留学生の入学希望者があった。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

社会人の受け入れ、留学生の受け入れの整備が今後も継続して求められる。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

受け入れ方針に基づき、募集はHPへの掲載や、募集要項の作成・配布により公表している。
京都女子大学大学院の選抜方法に基づき厳正に行われている。
2016年度より、学内推薦による募集も行うことを決定した。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

入学には至らなかったが、外国人留学生などから入学の問い合わせ、入学希望者がある。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

留学生の入学希望の問い合わせ、また入学希望者があり、留学生の受け入れの整備が今後も求められる。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学院は学部運営の上に成り立つので、学部の学科での教員会議で、学生の入試試験の成績の妥当性の検証を行っている。公正に行われていると言える。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 各学問領域の教員が、相互に希望学生の研究目標や方法をチェックしている。公正に行われているといえる。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 各学問領域の教員が、相互に希望学生の研究目標や方法をチェックし、公正に行われるよう維持する。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 各学問領域の教員が、相互に希望学生の研究目標や方法をチェックし、公正に行うことを継続する。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 適切な点検・評価が行われています。改善・発展方策も適切です。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	家政学研究科 生活福祉学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学として求める教員像については、『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』の第3条に、「修士課程及び博士前期課程の研究科授業担当教員(以下「授業担当教員」という)は、次の各号の一に該当し、かつ、当該専攻授業科目を担当する能力がある者でなければならない」と明記されている。

また、同内規第4条には、「修士課程及び博士前期課程の研究科指導教員(以下「指導教員」という)、及び研究科指導補助教員(以下「指導補助教員」という)は、前項の各号の一に該当し、当該専攻の授業科目を担当するのみならず学位論文作成等の指導について高度の見識と能力を十分に有する者でなければならない。」と明確に定められている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

退職に伴う教員補充を、『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』をもとに行った。公正に行った。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

退職に伴う教員補充を、『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』をもとに、公正に行う。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』をもとに、公正に継続し行う。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』に則り、研究科の教育課程に相応しい教員組織となるように整備している。研究領域の授業科目にはそれぞれ資格審査を受けた教員が配置されている。新規採用時においては大学での教育実績を考慮して、大学院の授業担当を決めるなど、適切な教員の配置を行っている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

『京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規』『修士課程・博士前期課程担当教員の資格基準』に則り、研究科の教育課程に相応しい教員組織となるように整備したことにより、大学院生が専門研究領域を超えて、幅広く研究できる体制が整い、新たな院生を迎えることができた。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

大学院生が専門研究領域を超えて、より幅広く研究できる体制が整えていくことである。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

大学院生が専門研究領域を超えて、幅広く研究できる体制が、継続して整えていくことである。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員の募集は公募制を採用して、募集を行っている。採用時には、大学院担当の教員の中から審査委員会を組織して、採用の適否の判断を行っている。教員の昇進は、審査委員会を組織して、昇進の適否の判断を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 教員の昇進を、審査委員会を組織して、昇進の適否の判断を行った。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員の募集は公募制を採用し募集しており、また大学院担当の教員の中から審査委員会を組織して、採用の適否を判断している。教員の昇進についても、審査委員会を組織して、昇進の適否を判断している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員は、毎年、研究活動、研究成果報告書を大学に提出している。各教員の業績はWeb上の[教員業績データベース]で随時入力し、ホームページ上の教員紹介から閲覧できる。生活福祉学専攻では、学科が毎年発行する紀要『京都女子大学生生活福祉科紀要』に、研究活動報告を掲載するなど教員資質の向上を図るための方策を講じている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

④、⑤の点検・評価については、次年度以降、進展状況を記入してください。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見